

## 東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座  
神経内科学分野

研究協力者：加藤昌昭 東北大学病院神経内科

### 研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

【方法】2014年度（平成26年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、23例であり、内訳としては、青森県5例、秋田県2例、岩手県4例、宮城県6例、山形県1例、福島県5例であった。これらの症例についてプリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。1例においてプリオン病以外の最終診断がつき、それ以外がプリオン病（疑いを含む）の診断であった。遺伝子変異を伴う例は180Val/116Ile変異を伴う例が1例であった。本年度剖検数は0例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考えられる。

### A. 研究目的

東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意をいただいた。

### B. 研究方法

2014年度（平成26年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

#### （倫理面への配慮）

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を

### C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、23例であり、内訳としては、青森県5例、秋田県2例、岩手県4例、宮城県6例、山形県1例、福島県5例であった。

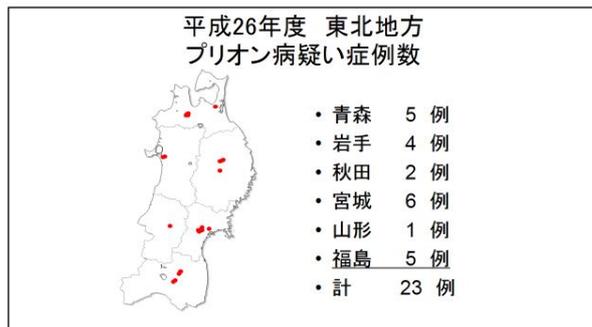
これらの症例について検討を行った結果、孤発性CJDと考えられた症例が21例、プリオン病以外と考えられた症例が1例であった。遺伝子変異を伴うCJDが1例、獲得性プリオン病の発症0例であった。遺伝性プリオン病はすべてV180I変異の例であった。

新規発症プリオン病患者数をみると、平成23年度 15 例、平成 24 年度 11 例、平成 25 年度は 26 例に対して平成 26 年度 22 例と、昨年と同程度の発症例数であった。



## E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。患者数は年ごとにやや増加傾向があり、今後の情勢に注意が必要である。



今後も継続的に調査を行うことが必要である  
と考える。

## F. 健康危険情報

特記事項なし

## G. 研究発表 (2014/4/1~2015/3/31 発表)

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし